

令和3年10月9・10・16日

保護者説明会市長挨拶

皆様、おはようございます（こんにちは）。小金井市長の西岡真一郎でございます。

本日は、大変にお忙しい中、また急なお呼びかけにも関わらず、「新たな保育業務の総合的な見直し方針（案）」にかかる説明会にご参加、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、皆さま方におかれましては、日々、小金井の保育行政にご協力を賜り、また1年半以上に及ぶ新型コロナウイルスの感染拡大への防止への様々な取組へもご理解とご協力をいただいておりますこと、重ねて御礼と感謝を申し上げます。ありがとうございます。

この間、説明会が開催できなかったこと、また、保護者に皆さまに対しまして、市から8月2日付けで方針案についてお知らせ差し上げたところですが、その後、段階的縮小時期の1年延伸などの訂正をさせていただくなど、この間の市の対応によって、ご不安・ご迷惑をおかけしましたことに、心よりお詫びを申し上げます。誠に申し訳ございませんでした。

本日は、皆様から直接ご意見を伺う貴重な機会とも考えておりますので、よろしくお願いたします。

感染拡大防止の観点から、この後、着座にて私も部長も課長もお話をさせていただくこと、ご理解いただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

それでは、まずはじめに、私の方から、廃園を選択した理由や背景について、述べさせていただきます。

この度、市として、公立保育園5園のうち3園を段階的に縮小の後に廃園するという考えに至った最大の理由は、公立保育園の運営者として、お子さんの安全を第一に考えた結果であります。

皆様ご承知のとおり、小金井市の5園の公立保育園のうち3園については、築50年を越える施設であり、老朽化も進んでおります。公立保育園については、これまで

も民間委託や民営化などについて検討してきたところですが、老朽化が進む3園については将来にわたってお子さんの安全・安心を保障することは難しく、また民営化については、これまでいただいたご意見の中でも、保育士が一斉に変わることや、運営者が変わることへの不安の声があがっていました。そのため、私としましては、運営者や保育士が一斉に変わることなく、今後6年間をかけて、現在、保育園に在園している児童が卒園するまで在園を保障し、卒園後に廃園とする方針を案として定めるに至ったところでございます。

これまで、保育の中でも大きな課題となっていました待機児童については、今年4月に41人まで減少し、小金井市の人口についても今後緩やかに減少していくことが見込まれます。コロナ禍による利用控えという声を伺うこともありますが、来年4月には新たに4園の新規の認可保育園を開設し、保育定員数をさらに267人、増やす予定です。平成26年4月に1,741人であった保育の総定員数は、令和3年4月1日時点では3,688人、約2.1倍となったところです。

保育園は古くから民間でも同様に運営いただける事業となっており、特に小金井市の場合は、民間の方々の力も借りながら、言わば公民一緒に小金井のお子さんを育ててきた歴史があります。また、ここ数年で、市内保育園の数も増え、株式会社立の保育園も増えましたが、どちらの保育園も、小金井の子どもたちのためにしっかり保育を行っていただいていると認識しております。

次に、これまでご質問、ご意見等が多かった6点に対する私の考えについて、お伝えさせていただきます。

1点目、今回の「廃園」というお話が唐突とのお声をいただいた件についてです。

行政としましては、ある程度ご説明できる準備を整えてからご説明に入らせていただく立場にあり、そのために長くお時間をいただくことで、「唐突」という印象を与えることとなってしまったことについては、申し訳なく思っております。

2点目、「保育園よりも庁舎」、また「公立保育園を減らしてそのお金を庁舎建設に充てるのではないか」などについてです。

今回の段階的縮小による財政効果については庁舎建設の資金計画には一切組み込

まれておりませんし、私としましても、そのような考えは一切ございません。

小金井市において、庁舎も公立保育園の件も20年来取り組んできた市政の大きな課題の一つであり、それぞれについて、これまで検討・準備を重ねてきた結果、同時期となったものと考えています。庁舎も公立保育園の件についても、どちらも成し遂げないといけない課題であることに違いはなく、同時に進めていかなければならないと考えております。

3点目、「建替え」についてです。

公共施設の老朽化対策については、高度経済成長期の急激な人口増加を背景として多くの公共施設が整備されたことから、その老朽化が大きな問題となっており、小金井市も例外ではありません。公共施設の中には道路や下水道などのライフラインも含まれることとなりますが、小金井市の場合、現在の公共施設をすべて維持した場合、1,497億円かかるという試算となりました。

市政運営についてお話する上で、予算の話は切り離すことができないものであり、修繕計画や定期的なメンテナンス、また建替え費用の積み立てなど、これまでの市政運営含めてのご批判もおありかと思えます。

それらについては、真摯に受け止めさせていただきますが、今後も持続可能な市政運営に努める立場にある私としましては、「これから何ができるか・何をすべきか」であると考えております。

そして、小金井市の保育事業は公民のベストミックスによって支えられてきた歴史的経過があり、民間には人材確保や財源確保に優位性があるという現状の中で、私としましては「選択と集中」という全市的な視点から、将来を見据えた判断をすべき立場にあると考えます。

4点目、「跡地利用」についてです。

私としましては、まず売却という考え方は持ち合わせておりません。

その上で、これまで長い間、小金井の子どもたちのために活用してきたことを踏まえつつ、小金井市の未来のために、より有益な活用ができるよう、今後、将来を見据えて検討してまいりたいと考えております。

5点目、「保育の質」についてです。

今年3月にすこやか保育ビジョンを策定させていただきました。私としましては、今後の保育の質の向上に向けた取組を強力に進めていく覚悟があります。そのためには更なる人材の確保が必要となりますが、現在の社会情勢を見ても、小金井市の職員数を増やしていくという立場に立つことは大変難しく、そのような中でいかに経験ある人材を確保していくかという視点において、公立保育園の数を減らすことで公立保育園は存続させつつ、経験ある人材を集約するという考えに至ったところでございます。

今回の2園の段階的縮小によって、今後、公立保育園で経験を積んだ職員に、公立保育園での新たな取組や、庁内に「(仮称)巡回保育支援チーム」を設置するなど小金井市の保育全体に関わる新たな取組を担ってもらうことで、小金井市全体の保育サービスの向上、また保育の質の向上を目指してまいります。

そして、これを機に、「幼保小連携」の取組についても、教育委員会と連携しながら、全力で取り組んでまいりたいと思います。

また、今回の段階的縮小によって得られる財政効果については、今後も必要となります「妊娠・出産・子育て期の切れ目ない支援」や「子育て・子育て教育環境の充実」をはじめ、全市的な視点をもって、更なる市民サービスの向上に充ててまいります。

6点目、在園のお子さんや保護者の方々への対応についてです。

私としても、公立保育園の運営方式を何らか見直すこととなれば、それが民営化であっても段階的縮小であっても、何らかお子さんへの影響や保護者の皆様のご負担をおかけすることとなるという認識はございます。特に多くご質問をいただいております「異年齢保育」が段階的縮小期間の後半において対応できなくなることについては、この段階的縮小という方式を採用する点では、大きな課題と認識しておりますが、卒園までの在園を保障するため、この方式を選択させていただきました。

在園のお子さんの数が減っていくことや異年齢保育の件については、他園への転園を希望される方への入所指数での優遇措置のほか、ほかの園や小学校、また地域との交流という新たな取組を行うことを考えておりますが、日々の保育の中でも保育内容等を工夫しながら、在園児への影響を最小限にしたいと考えております。一方で給食については最後まで自園で調理し提供させていただくなど、最後まで責任をもって対応していく所存です。

保育園を廃園とすることは、大変苦しい決断でもあり、現在在籍している方、保育園を卒園された方、近隣にお住まいで今まで保育園の運営にご協力をいただいていた方、様々なご意見を頂戴しています。

その上で、園舎が老朽化する公立保育園3園については、当該園に通うお子さんが安心・安全に在園し卒園できるタイミングは今しかないと考え、段階的に定員を縮小し廃園するという方針案を定めさせていただきました。

詳しくはこの後、担当から御説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。